

あ と が き

本年度は、富岡製糸場と絹産業遺産群がユネスコ世界遺産に登録されて5周年という節目の年に当たります。平成から令和への改元に伴う慶祝ムードとも相まって、富岡市では数々の世界遺産登録5周年記念事業を実施してまいりました。

一方で、台風19号の影響や新たなウイルスによる感染症の拡大などにより予定していたイベントの中止や富岡製糸場内で実施している活動の規模の縮小などを余儀なくされることもあり、改めて自然の猛威を痛感させられた年でもありました。

富岡製糸場総合研究センターは、2007年（平成19年）1月、富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産暫定一覧表に記載されたことを受け、富岡製糸場が有する顕著な普遍的価値を検証するため、翌2008年4月に当時の世界遺産推進課内に設置されました。

その後の2013年（平成25年）1月に日本国政府がユネスコ世界遺産センターに提出した富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録推薦書の中に富岡製糸場の調査研究に従事する組織として富岡製糸場総合研究センターが明記されています。

本年度は、これまで課内の一係に過ぎなかった当センターが本市の組織機構の見直しに伴い、一つの課として独り立ちを始めた年でもあります。

令和最初の記念すべき年にこうして『富岡製糸場総合研究センター報告書』を刊行することができたことは、担当者として感慨深いものがあります。

今年度の報告書では、新たに2名の執筆者が加わりました。いずれの論考も新たな視点に立った調査研究の成果であり、リズムカルで小気味の良い文体に青年らしい清々しさを感じられた読者も多いことでしょう。

特に、本市の友好都市である埼玉県深谷市から人事交流のため1年間にわたり富岡製糸場保全課に所属された飯島峻輔氏は、昨年3月に派遣元に戻られ、現在は渋沢栄一記念館に勤務されています。同氏の今後のご活躍を期待するとともに、富岡製糸場を縁とした両市の交流に引き続き力添えをいただきたいと願っております。

最後になりますが、富岡製糸場を将来にわたって維持していくためにも、富岡製糸場が有する顕著な普遍的価値をさらに強化できるよう新たな知見を集積していくことが当センターに課せられた使命の一つだと理解しております。遅々とした歩みではありますが、本年度の調査研究の成果である本報告書がその一助となり、多くの研究者に活用していただけることを願ってやみません。

令和2年3月

富岡製糸場総合研究センター所長

結 城 雅 則